

第156回 日商簿記検定試験 1級 一原価計算一 解説

模範解答・予想配点・解説等は、学校法人高橋学園が独自の見解によって作成しており、検定試験実施機関における本試験の解答並びに出題の意図を保証するものではありません。なお、予告なしにその内容を変更する場合がございます。ご理解いただいたうえで、ご利用ください。

問題 活動基準原価計算を用いた原価企画  
問1 製品X（現行モデル）の売上高営業利益率の計算

1. 製品単位当たりデータ

	金額	
販売価格	40,000 円/台	← [資料] 1(1)より
製造直接費		
直接材料費	14,000 円/台	← [資料] 1(2)より
直接労務費	6,400 円/台	← [資料] 1(2)より
小計	20,400 円/台	
製造間接費	(*)3,600 円/台	
小計	24,000 円/台	
売上総利益	16,000 円/台	
販売費及び一般管理費	(*)7,000 円/台	
営業利益	9,000 円/台	

(\*) 活動基準原価計算を用いた製造間接費と販売費及び一般管理費の配賦

コスト・プール	コスト・ドライバー	配賦基準	金額
発注・受入活動	9,000 円/回	(*)2)5,000 回	45,000,000 円
検査活動	200 円/時	(*)3)30,000 時間	6,000,000 円
補修活動	2,500 円/台	(*)4)1,200 台	3,000,000 円
製造間接費合計			54,000,000 円
包装・物流活動	75,000 円/回	600 回	45,000,000 円
管理活動	1,000 円/時	(*)5)60,000 時間	60,000,000 円
販売費及び一般管理費合計			105,000,000 円

(\*)2) 20 種類(製品X部品の種類) × 250 回(種類別発注回数) = 5,000 回

(\*)3) 15,000 台(生産・販売数量) × 2 時間/台(検査時間) = 30,000 時間

(\*)4) 15,000 台(生産・販売数量) × 8% (仕損発生率) = 1,200 台

(\*)5) 15,000 台(生産・販売数量) × 4 時間/台(製品単位当たり直接作業時間) = 60,000 時間

製品単位当たり製造間接費および販売費及び一般管理費の算定

	金額	生産・販売数量	単位当たり原価
製造間接費	54,000,000 円	15,000 台	3,600 円/台
販売費及び一般管理費	105,000,000 円	15,000 台	7,000 円/台

2. 製品X（現行モデル）の売上高営業利益率

9,000 円/台(単位当たり営業利益) ÷ 40,000 円/台(販売価格) × 100 = **22.5%**

## 問2 文章の用語補充

販売価格の設定方式は大きく分けて2つあるが、そのうち当社では(①マーケット・ベース・アプローチ)を採用している。この方式では最初に(②目標価格)が設定される。次にここから当社の目標売上高営業利益率を達成する所要利益を控除し、(③目標原価)が設定される。そしてこの(③目標原価)を達成するための手段として(④VE)などが実施される。(④VE)は(⑤ライフサイクル)の上流から下流までに全体にわたって行うことが望ましい。実際に当社では製品XⅡの開発段階において下流の包装・物流活動に焦点を当てたことで、目標売上高営業利益率を達成する見込みがたった。

### 【①の解説】

販売価格の設定方式には以下の2つがあるが、本問では顧客ニーズに応じた販売価格(40,000円/台)の設定をしており、かつ、目標売上高営業利益率(25%)の達成が可能な原価構成かを問1で検証していることからマーケット・ベースの価格決定をしていると考えられる。

コスト・ベース	定義	製品単位当たりの原価にマークアップを加算して決定する方法
	計算式	@原価+マークアップ=@販売価格
マーケット・ベース	定義	潜在的顧客が当該製品に対して支払うであろう価格を見積もることによって価格を決定する方法
	計算式	@目標価格-@目標利益=@目標原価

### 【②と③の解説】

【①の解説】で示したとおり、マーケット・ベースの価格決定の際には、潜在的顧客が当該製品に対して支払うであろう目標価格の設定から開始し、目標利益(所要利益)を控除して目標原価が設定される。

### 【④と⑤の解説】

目標原価を達成するための手段として、VE(value engineering)があげられる。VEとは、機能(F)と原価(C)の関係から製品やその構成要素の価値(V)を分析する技法である。このVEは実施する段階により次の3つに区分できることから、ライフサイクルの上流から下流まで全体にわたって行うことが望ましいといえる。

	ゼロルックVE	ファーストルックVE	セカンドルックVE
実施段階	商品企画	開発段階	量産開始後

### 問3 製品XⅡ（改良モデル）の計算

#### 1. 製品単位当たりデータ

	金額	
販売価格	35,000 円/台	← (*1)50,000/台 × (1 - 30%) = 35,000 円
製造直接費		
直接材料費	12,380 円/台	← [資料] 2(2)①より
直接労務費	4,800 円/台	← [資料] 2(2)①より
小計	17,180 円/台	
製造間接費	(*2)2,120 円/台	
小計	19,300 円/台	
売上総利益	15,700 円/台	
販売費及び一般管理費	(*2)4,500 円/台	
営業利益	11,200 円/台	

(\*1) 40,000 円/台 ÷ (1 - 20%) = 50,000 円/台

(\*2) 活動基準原価計算を用いた製造間接費と販売費及び一般管理費の配賦

コスト・プール	コスト・ドライバー	配賦基準	金額
発注・受入活動	9,000 円/回	(*3)3,600 回	32,400,000 円
検査活動	200 円/時	(*4)40,000 時間	8,000,000 円
補修活動	2,500 円/台	(*5)800 台	2,000,000 円
製造間接費合計			42,400,000 円
包装・物流活動	50,000 円/回	600 回	30,000,000 円
管理活動	1,000 円/時	(*6)60,000 時間	60,000,000 円
販売費及び一般管理費合計			90,000,000 円

(\*3) 15 種類(製品XⅡ部品の種類) × 240 回(種類別発注回数) = 3,600 回

(\*4) 20,000 台(生産・販売数量) × 2 時間/台(検査時間) = 40,000 時間

(\*5) 20,000 台(生産・販売数量) × 4 % (仕損発生率) = 800 台

(\*6) 20,000 台(生産・販売数量) × 3 時間/台(製品単位当たり直接作業時間) = 60,000 時間

製品単位当たり製造間接費および販売費及び一般管理費の算定

	金額	生産・販売数量	単位当たり原価
発注・受入活動	32,400,000 円	20,000 台	1,620 円/台
検査活動	8,000,000 円	20,000 台	400 円/台
補修活動	2,000,000 円	20,000 台	100 円/台
製造間接費合計			2,120 円/台
包装物流活動	30,000,000 円	20,000 台	1,500 円/台
管理活動	60,000,000 円	20,000 台	3,000 円/台
販売費及び一般管理費合計			4,500 円/台

#### 2. 製品X（現行モデル）の売上高営業利益率

11,200 円/台(単位当たり営業利益) ÷ 35,000 円/台(販売価格) × 100 = 32% → 25%を **7%**ポイント上回る